

「キャンピングカー白書2007」が伝えるユーザーの素顔 「50歳夫婦のふたり旅」が主流

ふたり旅
楽しんでいます!



山本馬骨ご夫妻

キャンピングカーユーザーの平均年齢は49.88歳

平均年齢は約50歳。世帯収入は600万円台の後半。そしてその半数の人たちは、夫婦ふたりの「くるま旅」を楽しんでいる。

そんなキャンピングカーユーザー像が、このたび日本RV協会の発行した「キャンピングカー白書2007」から浮かび上がってきた。

このユーザー調査は、日本RV協会が

主宰する「くるま旅クラブ」の会員のうち、その1,245人の回答をもとにまとめられたもので、ほぼ平均的なキャンピングカーユーザーの実状を推測するものといっている。

それによると、キャンピングカーユーザーの平均年齢は、テントキャンプを楽しむ人たちの平均年齢より約10歳ほど高い49.88歳。まさに、定年退職後のライフス

タイルを思い描きながらキャンピングカーに接している人たちがその中軸を占めていることが分かる。

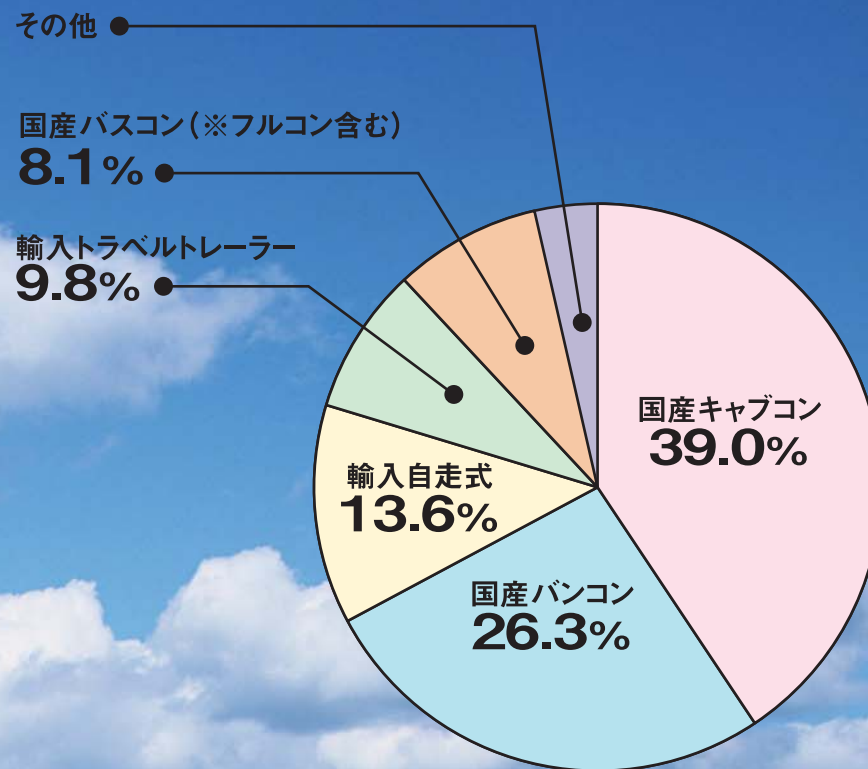
また、ユーザーの買っているクルマの価格帯としては、400万円台から500万円台のキャンピングカーが多く、その内訳は、国産キャブコンの所有者が39.0%。国産バンコンは26.3%。国産バスコンと国産フルコンは合わせて約8%。つまり全体の7

割強が国産ビルダーの製作したキャンピングカーに乗っていることが分かった。

一方、輸入車では、トラベルトレーラーを購入した人がユーザー全体の1割に迫る9.8%を占め、自走式の輸入車を所有している人は、アメリカ製・ヨーロッパ製を含めて、全体の13.6%ということが明らかになった。

くるま旅クラブ会員所有車のタイプ別比率

【くるま旅クラブ会員アンケート調べ】



COLUMN 山本さんが教える長距離旅行のコツ

●「くるま旅」では、毎日の生活環境が変わるので、疲れているのに眠れないということがよくある。しかしそれを気にしていても始まらない。「眠くなったら寝る。眠くないときは寝ない」。そう思って悠然と構えていればいい。快眠は、眠くない状態では決して実現できない。だから、逆に眠くなったときは、道の駅や高速道路のサービスエリアなどを利用して、昼間でも短い仮眠を取る。そのようなリズムを身につけることが、長距離のキャンピングカーライフを円滑にこなす力となる。

●旅に出ると、解放感も手伝い、つい美食・飽食に傾きがちである。しかし、グルメ旅行

は、長期のくるま旅では避けた方が望ましい。健康と予算に狂いが生じがちになるからだ。特にコレステロールや中性脂肪に関して注意を受けている人は要注意。健康に留意して、最低でも1日1食は自分で調理して食べるようにしたい。

●熟年夫婦の「くるま旅」を上手に続けるコツは、いつも一緒に行動するなどという形でお互いを縛らないことを心がけることが肝要。同じ観光地に行っても、時には夫婦で見たものが異なる場合もある。また、片方は疲れてクルマの中で休んでいたいときもある。その場合は、思い切って、夫婦が別な行動を楽し

むことも必要だ。お互いが自由に楽しむ時間を尊重しあうことが、かえって長旅をストレスなく続けられる秘訣となる。

シニア夫婦のくるま旅を実践し、その楽しさとノウハウをまとめた山本馬骨さんの著作。日本RV協会の推薦図書にもなっている。

山本馬骨・著

『くるま旅くらし心得帖』新風舎 1575円



